

平成26年第6回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成26年 9月 1日 (開会)

平成26年 9月11日 (閉会)

日程第4 一般質問

○議長（小林信） 日程第4 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。4番、佐藤真二君。

（4番 佐藤真二議員 一般質問席登壇）

○4番（佐藤真二） では、最初の質問に入らせていただきます。

最初の質問は、若者定住構想についてということですが、我が村は、それなりにインフラ整備も整っております。村民の生活にはそれほど不便は感じないと思います。多少雪が多ったり、近くにお店が無いなど買い物が不便なことなどは、自然減少であり、また社会現象でもありますので我が村だけの問題ではありません。そういうことからいたしますと、私は、それなりに上小阿仁村は住みやすい村だと思っております。しかし、高齢化が進み、ついに高齢化率が50%を超え村民2人に1人が65歳以上になりました。

最近では生まれる子どもが10人以下で、今年度の小学校の小学生も10人以下であると記憶しております。いかに元気なお年寄りでも若者のようには頑張れません。村長も若者がいなければ村を変えていけないと話をされています。この元気なお年寄りの皆さんが頑張っているうちに1人でも多くの若者が村に定着していただきたいものです。

お年寄りの中には、福祉も大事だろうが若い人にもお金を使ってくれ、若い人がいなければ村が無くなると切実に訴える人もいます。中田村長になりまして4年目に入っておりますが、これといった独自の政策が見られません。

そこで質問に入りますが、村を存続させるためには村の後継者である若者に定着していただかなければなりません。村として、村長として何か政策は考えていられるのでしょうか。村長の答弁をお願いいたします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 佐藤真二議員の、若者定住構想について、定住させるための政策はとのご質問でございます。

後継者の育成、若者の定住は、村の将来を左右する大きな課題であると同時に、非常に難しい問題でもあります。

地場産業の振興が思うようにまかせない中で、村の若者が職と収入を求めて都市部に流出し、残った高齢者達が延々と農地を守っている姿が、普通に見られる風景となってしまっています。地場産業である農業の人口の占める65歳以上の割合は、秋田県は、平成22年度に60%を超えてきています。地域住民の高齢化が進み、残念ながらその勢いを弱めることが難しい状況になってきています。

しかし、佐藤議員が村の将来を心配するように、行政でできる政策を早急に模索していかなくてはならないと考えております。

昨年末に、日本創生会議が、2040年、人口減少率全国一の秋田県は、25市町村の内、大潟村を除く24市町村が消滅する可能性があると報道されました。この推計の特色は、出産可能年齢の女性人口に着目したもので、二十歳から39歳までの女性人口の推移を予測したものであります。全国で896市町村が消滅の可能性ありとされました。そうした中で、ようやく国にも動きが出てきています。町、人、仕事の創生本部を発足させ、人口減少の克服や地方経済活性化に取り組む姿勢が見えてきています。

女性の働きやすい環境の整備や、第3子以降の出産や育児を重点的に支援するなど今後に大きな期待がかけられます。

さて、村ではこの度、全世帯を対象に「上小阿仁村後継者等に関するアンケート調査」を実施いたしました。8月27日現在のアンケート回収率は402件、38.2%となっています。現在、回収したものから、集計と分析を行い今後の政策に反映させていきたいと考えております。

若者の定住には、1番に働く場所があげられると思います。後継者の育成のため、野外生産試作センターでの研修を行う農業後継者育成技術研修実施要綱や企業のために特産品の開発、雇用の機会増大を図る産業振興奨励に関する条例、中小企業振興融資あっせん資金制度要綱などで、工場新設並びに増設の育成や職場の確保につながるよう努めてきました。

このように、これまでいろいろと検討を重ねてきておりますが、各分野で後継者が根付く状況にはなっておりません。秋田県や各市町村においては最重要課題として若者定住が挙げられ、あらゆる施策を講じておりますが、ひとつの施策で定住するというのは考えづらく、農林業政策、商工業の育成、少子化対策、高齢化対策、住宅問題、雇用の場の確保、誘致企業対策、地域医療の充実、生活環境整備、地域交通の確保など、幅広い細やかな政策によって実現されるものと考えております。

しかし、どこの地域でも同じような取り組みがなされており、これまでの地域再生を巡る政策には、根底に農村に工業を導入し、農業離農者を工場労働者として吸収し地域の所得向上と人口流出の抑制を図るといった高度成長期の姿勢がまだ色濃く残っているような気がいたします。

労働力の減少などで追従することが最近では難しくなった現状から、公共事業や誘致工場による産業振興を食い止めるといった考えだけでは、地域経済の衰退や、それに伴う人口流出を食い止めるのが困難となってきています。

秋田県が過疎集落を対象に実施した住民意識調査によれば、自分が住んでいる地域が住みにくいと答えた世帯の割合は1割強にすぎず、健康や交通手段、

後継者の確保や地域の存続に強い不安を唱える一方で、人間関係や自然環境を理由に住みやすいと答えた世帯が8割以上に上がったという数字が出ています。

基盤整備や社会資本については十分とは言えないと、都市との格差は縮小され、希望される部位は医療や交通等の生活、インフラの充実及び後継者の育成など地域を支える仕組みづくりということになると思います。

最近の一連の動きに目を向けますと、全体に共通する特徴は、従来からのやや行政頼みという色合いが薄れ、地元の事業体や住民が主体的に関わる割合が、これまでより大きくなってきた点であるように思われます。農商工の連携や六次産業化といった地域での異業種が連携して新規事業に乗り出す例が多く見られ、B級グルメ運動や地元食材を活用した新商品の開発、販売、更には伝統行事再生への取り組みなど、地域性を生かした食と観光の分野から地域振興を図る活動も盛んになっています。

ただ、行政側から供与された計画ではなく、地域が主体的に取り組む姿勢と努力の中から、新たな産業化の足がかりが生まれる可能性が最も大きいと思われれます。規模の大小は別として、生活の糧とする事業を自ら起こし、行政の支援と共にそれを拡大していく努力こそが本質ではないかと私は思っています。

あるアンケート調査によりますと、都会の若者の30%は田舎に住みたいと答えているそうです。そういう若者を村に呼び込み、田舎暮らしを体験させ、企業を起こさせてここに住んでいただくとか、若者向けの公営住宅を建設し、子育て支援を充実させ、近隣の職場に通勤できるような取り組みや、空き家を活用してシニア層を対象としたスローライフ生活ができる第二のふるさとなどの居住整備など、今後の施策として取り組んでいければと考えております。

幸いに国や県において人口減少対策が早急の課題として浮上しており、国や県の取り組みと連動できるような形で進めていければ思っており、議員の提言等いただければ、検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

○議長（小林信） はい、4番、佐藤真二君。

○4番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございました。

今の村長の答弁の中にもありましたが、今、国、県、それぞれ今回こういう市町村が減るということで今回からは力をいれると話をされておりました。私が言いたいのは何度も同じことを言いますが、やはり中田村政という、中田村長のカラーなのです。やはり上小阿仁村、この次の質問にあるKAMIKOANIプロジェクトというのがありますけれども、やはり話題性のあるその独自の政策、若者についての独自の政策、先ほど村長が話しされていた空き家を使って、また行政が先立って空き家を使って若者を呼び込むそして低家賃の若者住宅など建てて、実際に増えている市町村があるわけです。これは何も村に住んでいる

方ではなくても、ほかから来て安い住宅なので住みます。そして夫婦に子どもが生まれて、そしてそれが村に定着してくだされば、いずれは村の村民となります。

やはり、そういう中田村長の、この地域が秋田県の中でも上小阿仁村は頑張っているという、そういう独自の政策が、私はこの4年間の間に1つでもあって欲しかったなど、私は思っています。

今、村長が言いましたが、これからでも遅くはないので、これからそういう上小阿仁村という地名が聞えてくる、国の政策や県の政策ではなく、そういう政策をしていただきたいと思います。

以上で、私の質問の1つ目は終わります。

○議長（小林信） はい、4番、佐藤真二君。

○4番（佐藤真二） 続きまして2つ目は質問です。KAMIKOANI プロジェクト秋田2014についてであります。今年の8月9日より開催され、まだ20日程度ありますが、今回は、会場も1箇所増やしまして3会場で開催しております。今年で3回目の開催で、私も別の団体からプロジェクトの委員に入っておりますので担当職員の頑張りは見えています。また村外、県外からなどの反響は大変あると聞きます。私個人も村外へ行きますと話題にのぼり上小阿仁は良く頑張っていると褒められます。しかし、村内では、村民からは話題にのぼること殆どありません。

8月17日に学習センターで開催されました北川フラム先生の講演でも参加者は、新聞発表では100人～130人ほどで、なおかつ参加者は役場の課長クラス、またプロジェクトに携わっている関係者が主でありました。一般の方の参加は大変少なかったように思います。また、休みを利用して八木沢会場にも何度か足を運びましたが、村民の方は殆どいません。喫茶の方にも聞き取りしましたが、まだ20日ほどですので昨年よりも村民の方は少ないということでした。

沖田面会場、小沢田会場は集落内にありますので、それなりに村民が見学に来るそうです。特に小沢田会場は、道の駅近くのせいか村外の来場者は増えていきますし、八木沢会場も私も何度か見て村外からの来場者は増えております。しかし、問題は村民が興味を示さないことです。多額の予算をもって村が負担しているわけです。多額の予算を負担して行っているイベントであれば継続するには村民の参加なくして理解は得られません。村長は、以前に来年度は新潟の大地芸術祭が開催されるので来年も開催したい意向の話をされていましたが、村民の理解を得られないイベントを継続するのは大変難しくなります。

そこで質問ですが、3回目の開催ですが、以前よりも村民の関心が低いように私は感じます。村長はどのように考えているのか、村長の答弁をお願いいたします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 2つ目の質問で、KAMIKOANI プロジェクト秋田 2014 について、村民の関心が低いように感じるが、村長の考えはどうかというふうなご質問であったと思います。

今年は、秋田県で国民文化祭が、25 市町村を会場に開催されることになっておりますが、村では昨年、一昨年と行ってきた KAMIKOANI プロジェクトを充実させ、里山アートでの取り組みを行うことにしております。

今年は、小沢田地域センターも展示用に加え、これまでの八木沢集落と旧沖田面小学校の三つの会場で行っており、多くの方々に足を運んでいただければなと思っております。

ご指摘の村民の関心が薄いのではということでございます。林の中から森は見えれないという言葉があります。林に入ってしまうと、その森の大きさ、森の良さというのは殆ど見えれないわけです。ですから、私は、村民の方々が、その良さを見ていない。行政は一生懸命宣伝を重ねてきました。そして、新聞等報道機関も沢山の雑誌にも載っております。これだけやっても、どうして村の人方は感じないのかなと、私は不思議でならないわけです。

自分達で楽しんでいく。それから、これは他所から来る人方を一緒になって楽しむのだと。上小阿仁の良さをここで再発見するのだという気持ちがなければ、何をやっても、それはただ選挙民に飴玉を配るような、そういうシステムになってしまうわけです。私は、そうではなく、地元の人方が本来上小阿仁村というのはこんなに素晴らしい自然を持っているし、素晴らしいものがあるのだと。他所から来た人方がわざわざ気づいてくれているのです。それを、村民の人方が知ろうしないということは、大変残念だなと自分は思っております。

これが内向きの議論であればいくら私方が外を見て、そして、交流を深めて村を発展させていきたいと考えていても、それがなかなか難しいことだなというふうに考えます。

本当にご指摘のとおり村民の関心は何故低いのかなと、それを私自身も感じます。何故低いのか。他所からは何故人が来るのか。人が来るということは、そのものに感心がある人方がいるということなのです。ただ、それが2割なのか、3割なのか、それは分かりません。ですが、ここにわざわざ上小阿仁村まで車で来る人方がいると、小沢田で展示会を見たり、沖田面旧小学校で展示会を見たり、そしてまた八木沢まで行って見る。昨日はすごい人数であったそうです。段々、やっぱり報道機関とか、そういったものに取り上げられますと、人は行って見たいなというふうになると思います。私方もそうですので、ですから、そういうふうにならぬように少しづつ感化されたいなと、自分の殻に閉じこ

もる必要がないと思います。

進化していくということを、私は、村民もですし、我々もそうしていかなければいけないと思います。この地域であっていろんなことをやろうとしても、地域にあったことしかできないとすれば、それは他所から見た場合、本当にそれが必要なのか、村の人方はいつもそういう話をします。自分が自分に関係しないものはいらないのだと、こういう議論があれば、いつまでたっても進歩はないのではないのかなど。そうではなく、佐藤議員も実行委員会に入っております。ですから、いろんな指摘もしてもらっていますし、それに対してできるだけ看板も建てたり、ノボリを建てたり、やれることを少しずつ、3年目ですので手探りの状態から、そういうふうに積み重ねてきています。それは確実に我々の力になると、そう思っています。

今まで、上小阿仁村というのは、外から人を呼び込む、そういう事業やってこなかったわけです。観光地もあるわけでもないし、他所から一杯来て、あそこすごいことをやっているなあと、そういうふうな形で来る人がいなかったわけです。我々が出かけて行っても、賑やかなところ、一生懸命頑張っている所を見れば感化されます。人は皆、上小阿仁でこういうイベントをやっているれば皆戻って行って自分方の所でも、何かできないのかと。必ず感化されると思います。それが人間であるし、それが発展につながっていくことだと、私は思っています。この間、外国人の記者が10人ほど来ました。村長に対して鋭い質問です。人口が減っていく、このアートでどうやって村は維持できるのですか、こういう質問がくるのです。議員の皆さんよりもすぐきつい質問です。どうするのですか。でも、答えていかなければいけないわけです。

私は、このアートというのは馴染みが薄いわけです。ですから、その回数を重ねていかなければ、みんなの中に入っていけない。新潟も、やっぱり5回、6回となって初めて回りが評価してきています。そしてまた、瀬戸内の方もそういうかたちで評価が段々あがってきているわけです。1回目、2回目で最初から評価はいいものは必ず衰退していくと、私は、そこにその地域の努力というのが積み重なってきているのだなと思っています。

そういうのが、私方にとって見るだけではなくて勉強していくのだという形が必要でないのかなと、地域の人方が、上小阿仁に来てくれた人と何かしら交流すると、今大学生も来ています。その人方は必ず地域の人方と交流しています。必ず行く時冬も来たいと、マトビに手伝いに来たいと、あそこでご馳走になった料理美味しかったと、都会では味わえないと、こういう言葉をいろんなところで発信しています。ですから、我々の知らないところでいろんな人が来るということは、そういう変化がおきてくるし、確実にその泊めた人方の考え方も、私は変わってきていると思います。それをやっぱりもっともっと繋げて

いくと、広がりをもっていくということが、この小さな上小阿仁村のこの取り組みが成功するひとつの方法ではないのかなと、やはり、これも私1人でできるわけでもありません。議員の皆さんの了解を得たり、賛同を得たり、そして支援も得なければできないわけです。でも、何をやるにしても将来を見据えた、そういう取り組みにしていかなければ、今だけのことだけを考えると私はいけないと思います。

いずれ、この村の人方の関心低いということは、何かがあると思っています。そのためには、やはり、我々はどうすればいけないのか。まず、社協の人方にも、お年寄りでもいいから毎日その保健センターに来なくても、八木沢に行っていていい空気を吸って過ごしてきたらよくないか、それに対してはマイクロバスでも出すし、各集落でもそういう取り組みがあればバスの手配もしていきたいなと思っています。

ですから、そういった皆さんから要望をどんどん出してもらいたい。ものごとは批判するだけが前に進む道ではないと思います。助言が必要なのです。批判ではなくて助言なのです。その助言をいっぱい出してもらいたいと、そうすれば皆で変っていきけるのではないのかなと思っています。

今、地域にどんなものがあるかと言えば、すぐには出てこないわけです。他の地域と違っていいものがあるか、でも、必ずこの地域に適したものがあるはずなのです。それを、試行錯誤しながら見つけていくということが、この地域皆でやることによって、この地域の力というのが上がってくると、私はそう思っています。ただ、行政だけが、私だけがこれをやっているから村長だけが、そうやっていい気になっているのだと思っているかもしれませんが、決してそんなことはありませんし、皆でやっていきたい。だから、どんどん後押しするように助言をしていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（小林信） はい、4番、佐藤真二君。

○4番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございます。

村長の村を何とか変えたいという考えは伝わってきました。私もこのイベントに関しては別に批判をしているわけではありません。先ほど話をしましたが、担当している職員一生懸命頑張っているのを見ています。しかしながら、来年度も村長は新潟の大地の芸術祭に行きたいという話をしております。その飛び地開催をしたい。そうなれば、やはり村民の理解を得なければ、予算に上がったとき、我々議員でありますので村外の人たちを大変喜んでいただいておりますが、地元の住民の理解も得なければ予算を通すことになりまして大変であります。今、村長が言われましたように、こういうものというのは地元に住んでいる何%の方々の携わるのか。また、村は2,500人ですので100人も見に行けば

たいしたものだという話なのか、また時間をかけて初めて村外の方々から、こういう村でやっているのですよ、貴方知らないのかと言われて初めて村の方々が見に行くのか。時間をかけなければならないものであれば、私ここで1,000万、2,000万かけるよりはこういうものにお金をかけて行った方が村の振興に、村に人が寄ってくることは良いことだと思います。

人が集まらなければ何も始まりません。やはりそういうことでありますので、私は村長に質問したのは、村民に少しでも理解してもらうための、こういう趣旨でやっているのですよと、ただ感心が低いのも私も同じで、村長も感じていらっしゃることはわかりましたので、この質問はこれで終わります。

時間があまりないので3番目の質問に入ります。

○議長（小林信） 一旦、着席願います。はい、5番、佐藤真二君。

○4番（佐藤真二） 3番目の質問に入ります。

除雪終了時間についてであります。これは25年3月、24年度の議会の25年3月の一般質問にも私の質問にいたしました。除雪の終了時間は、上小阿仁村は少し遅いので、終了時間の改善を要望しましたが、昨年度、26年、一考に改善されておりませんでした。25年度から建設課長も代わりまして、私が質問したのは3月で、除雪も終わっていましたので引継ぎもあまりよくなかったのか分かりませんが、26年も大変遅くまでかかっておりました。

今年から、今年度、この冬を向えますが、この後、何か対策は考えておられるのか。村長の答弁をお願いいたします。

○議長（小林信） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 佐藤議員の3点目の質問、除雪関係でございます。終了時間が遅く事故が心配だというご質問だと思いますし、その改善策はもっておられるのかというふうなご質問だと思います。

毎年、12月になりますと雪国の宿命であります除雪作業に追われます。この除雪に携わる業者や直営の運転手にとっては深夜作業でありますので、大変体力的にも厳しい状況での作業であると私は認識をいたしております。

上小阿仁村の除雪作業要領により除雪時間になりますと官民一体となって万全の体制を取っておりますが、その年の降雪量や除雪業者の減少による除雪機械の減少、また運転業者の高齢化や運転技術の未熟などにより、計画では深夜2時出勤、早朝7時までに終了となっておりますが、なかなかそのようになっていないのが現状であります。ご指摘のとおり場所によっては、大幅に遅く業者によっては1日中除雪している機械も見受けられました。

日中の除雪は、歩行者や通行車両などに注意が必要となり、安全性を確保するためには、補助的作業員の配置も必要になるのではないのかなと心配してお

ります。

しかし、だからといって村民の安全、安心な暮らしを確保するためには、除雪作業を途中で切り上げて終了できるものではございませんし、早期終了の指導に努めてきたつもりでございます。しかし、最近、地域の高齢化が進んでおります。どこのうちも1人暮らしとか、高齢者世帯が多くなりましたので、家の前に除雪車が少し塊を置いていきますと、その処置に困り役場の方に苦情が多く寄せられてまいります。昔はそうではなかったわけですがけれども、最近は特にそういった傾向が強まってきております。

村の除雪は他の市町村の道路と比べても状況は断然いいとお褒めをいただいておりますが、しかし、事故防止や歩道、車道の適切な管理を一生懸命やっている状況でございますけれども、なかなかその時間どおりに、尺定規にやれるかといえ、なかなか難しいというのが現実的な答えになってしまいます。ただ、いろいろ反省しなければならない部分的なこともございますので、今から雪の降る季節までに、その除雪路線の見直しや、いままでは時間単価であったけれども、路線単価にしようかなというふうな、その路線は1回いくらというふうな形を取れないかなということも検討を加えておりますし、それから、早朝にやる除雪と日中にやる除雪をはっきりと区別をしていくということも必要でないのかなと。例えば、田んぼの中とか、散歩コースとか、そういったところは日中に回していくのだと、生活路線を重要視していくのだというふうな2系統の除雪体制を検討してみたらどうかと、今考えているところです。

そうしますと、ある程度早朝に出て行った業者が、日中は自分のところの別の運転手を使って、1台の機械で有効に機械を配置できるのではないのかなというふうな考えを持っておりますので、まだ、こうするというふうなところまではいっておりませんが、いろいろつめて検討してまいりたいと思っております。

有効活用と事項防止、安全確保に重点をおいてしっかりと指導してまいりますので、よろしくご指導ほどお願い申し上げます。

以上です。

○議長（小林信） はい、4番、佐藤真二君。

○4番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございました。

今、村長から話されましたように、今年はいろいろ考えていくらでも早く終らせるようにしたいという考えは分かりました。

幸い今までは人身事故などまだ起きておりませんが、やはり日中の除雪は村の業者の皆さんには先ほど村長が言われましたように、助手も乗っているわけではありますので、これから事故を起こしてしまえば取り返しのつかないこととなりますので、少しでも考えて、1時間でも早く終らせるようにお願いし

たいと思います。

以上をもちまして、私の質問を終わらせていただきます。